

## I. 遺跡の位置

福生不動尊遺跡は、東京都福生市大字福生字武蔵野2143の1(北緯35°44.4、東経139°21.1、海拔136m)に所在している。

本遺跡は、多摩川の上流、平井川との合流点の東部、多摩川により形成された幾つかの段丘の最上部、立川面崖線直上に位置している。この付近の段丘は、本遺跡のある立川面、その下に、拝島面があり両段丘間にも部分的にもう一つの段丘青柳面がある。さらに天ヶ瀬面千ヶ瀬面を経て多摩川へと至っている。またそれらの段丘間にも小規模な段丘が細かく認められる。

このあたり、多摩川、平井川、秋川の流域付近には、各時代の遺跡が多く、縄文時代も時期的にはほとんどの遺跡が確認されている。福生市の縄文時代の発掘された遺跡には拝島面の長沢遺跡がある。

## II. 発掘経過

本遺跡は、以前近接する畑地より縄文土器片が採集されていることにより遺跡の存在が推定されていた。

発掘調査は、試掘調査が1月17日から1月23日まで、本調査は、2月14日から3月9日までの2回行なわれた。本書は2回の発掘調査の総合である。

調査はまず不動尊敷地の形状にあわせ、10m×10mグリッドを設定し、東西ラインにアルファベット、南北ラインに数字をつけた。さらにそれを2m×2mの小グリッド25個に区分した。敷地内にはすでに不動尊構築物とその作業施設が設けられており、発掘グリッドはそれらをさけて設定した。その結果敷地の外郭に集り遺跡の全体規模を把握することはできなかったが、遺構の集中部とみられる部分を確認できた。発掘面積は予備調査、本調査で338m<sup>2</sup>に至った。

発掘作業は、最初スコップで表土を剥ぎ、II層上面から鋤簾で注意深く剥いていった。ほとんどの遺物は地点をとり、また遺物包含層が厚くしっかりしているため、生活面のレベル分離も可能かと思われたため大形、重量のものはレベルをとった。

遺物数の少ない所は部分的に50cm×50cm×10cmで一括で取りあげを行なった。発掘グリッド内全体をIII層のローム層上面まで落とし、さらに数ヶ所を先土器時代遺物検出のためローム層内にまで掘り下げたが、遺物、遺構は縄文時代のものだけに停った。